「市長とのタウンミーティング」の実施結果について

1．参加人数

日　時		地　区	参加人数
10 月 29 日(土)	10 時～	伊保	18 人
	14 時～	高砂	13 人
10 月 30 日(日)	10 時～	米田	27 人
	14 時～	荒井	19 人
11 月 5 日(土)	10 時～	曽根	21 人
	14 時～	阿弥陀	20 人
11 月 20 日(日)	10 時～	中筋	5 人
	14 時～	北浜	21 人
合　計			144 人

2．参加者年齢

20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代以上
0 人 (0%)	2 人 (1.5%)	9 人 (6.7%)	12 人 (8.9%)	53 人 (39.3%)	59 人 (43.7%)

3．タウンミーティングは良かったか？

悪かった 1	2	どちらでもない 3	4	良かった 5	無回答
1 人 (0.7%)	1 (0.7%)	25 人 (18.5%)	42 人 (31.1%)	59 人 (43.7%)	7 人 (5.2%)

4．タウンミーティングの時間は？

短い 1	2	適度 3	4	長い 5	無回答
7 人 (5.2%)	15 人 (11.1%)	96 人 (71.1%)	8 人 (5.9%)	1 人 (0.7%)	8 人 (5.9%)

５．各地区でのご意見等（概要）

各地区の会場で出たご意見等に対して、市長（又は担当部長）が回答した内容をまとめています。また、当日実施したアンケートについても、自由記載の一部を抜粋して記載しています。

（１）高砂地区

▽『少子高齢化、人口減少が著しい高砂町の活性化施策について』

・買い物弱者対策について、パソコンやスマホで買い物ができるような体制づくりをお願いしたい。スマホ講習会等を開催するのであれば、受講してどれぐらい使えるようになるのかをイメージできるような、通知・周知方法や説明が必要である。

☞ 市で実施しているスマホ講習会は、基本的な使い方を説明する会である。今後、どのようなアプローチの仕方がいいのか検討していきたい。買い物支援においては、民間の行っている移動支援の活用や西友跡地問題について早く動きができるよう進めたい。この地区での出店が進まない中、移動支援をいかに行うか、市としてサポートしていきたいと考えている。

・町の活性化・少子化として、商店街で買い物ができるという環境整備が必要である。また、人口が増えて魅力あるまちづくりが必要で、将来的には以前のような活気ある町にしていくことが大切である。構想や手続き状況など、市の情報を市民に発信してほしい。

☞ 商店街の活性化については、県と共に進めている。商店街への事業参画ができるよう広く広報していきたい。町の活性化については、山電高砂駅の活性化、西友跡地の問題について、若い世代の方、高齢者の方が住んでいただけるようなまちづくりを早急に作る必要があると考えている。臨海部企業にお勤めの方、これから結婚される方が通勤に便利なまちづくり、また、教育環境の整備など次世代を担う方が住みやすい環境づくりも必要と考えている。

・公共交通に関して、高砂と加古川を結ぶバス路線は有意義かつ必要な路線であった。この路線バスの復活をお願いしたい。加古川市と連携できないか。

☞ じょうとんバスについては、利用実績が伸びない中、路線の見直しを考えている。そこで、お困りの方にどのような支援ができるか福祉的な観点からも複合的に考え対応していきたい。

・人の命を守るという意味で、公立病院を守ってほしい。

☞ 今年度、コンサルティング業務を委託し、経営分析を依頼している。その結果を踏まえて、将来的な判断をさせていただきたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・市民プールはどうなってしまうのか。

☞ 令和５年度での廃止に向け代替案等を検討中である。１１月に実施した説明会やアンケートでのご意見を踏まえ、今後も検討していく。

・水道料金については、安全に飲める水を確保することは必要と考えるので、料金アップはやむを得ないと思う。

・市民との交流を深める場を増やしていって欲しい。高砂市独自の魅力あるまちづくりをお願いしたい。

・規模を縮小せず市民病院を残して、加古川市に行かなくてもいいように診療科目を全部残して欲しい。

・高砂町は課題が多く、すべて繋がった問題なので、個別に解決するのではなく、連動させて進めて欲しい。

・次世代に課題・問題を残さないよう変化を恐れず、もっと積極的に取り組んで欲しい。

（２）荒井地区

▽『災害時の対応について～市の対応と地域の課題～』

・災害時に小学校では避難者がパンクする恐れがあるため、浜手の大手企業等の施設を活用できるよう、市から申し入れできないか。また、市と企業、自治会を含めた、三者協定による民間企業避難所の開設はできないか。

☞ 臨海部の大手企業とは協力体制は作っていきたい。ただ、企業側にも事業継続計画があるので、今後の協議の中で進めていきたい。

・災害には想定外が考えられるので、備えについての啓発をしっかり行ってほしい。

☞ 多くの市民の皆様に安心していただけるよう、丁寧に説明をしていく。

・在宅酸素をはじめ、いろいろ在宅で治療している方がいると思う。どこに、どのように避難すれば安心であるということを、市の方で広報してもらえると助かる。

☞ 医師の確認が必要であると考える。情報収集など事前調査して避難計画を立てる必要があると考える。

・地域での防災活動において、個人情報の取り扱いが弊害になっている。

☞ 災害時だけではなく、個人情報の問題はあると考える。情報漏えいの恐れなど、様々な課題を解決しながら進めていきたい。

・他団体で採用している救急医療情報キットのように、医療情報シートを市ホームページなどで普及させてもらいたい。

☞ 救急医療情報キットについては、様々な事例が公表されている。先進事例を参考に研究していく。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・防災無線では聞き取りにくい地域や家の中にいる人に対して、スマホ等で個々に情報が流せないか。

☞ スマホアプリ「たかさご防災アラート」で放送内容を伝達・確認できるようになっている。視覚や聴覚に不安のある方は、電話・ＦＡＸ配信サービスもあるので活用してほしい。

・もっと色んなテーマで話を聞きたい。

・市の意見を聞きながら、自治会の役割を再認識した。

・災害時も市民病院は必要。

・近い将来に予想される災害に対応できる体制づくり（ハード・ソフト面）を早急に進め、次の世代に繋げたい。

・災害発生時は市職員だけでなく、各委員や士業で支援できる体制で協力できたら。（各種申請など）

（３）伊保地区

▽『伊保地区のまちづくり』

・伊保・宝殿停車場線の中央分離帯の雑草について、交通安全、安全対策という面から除草をお願いする。また、街路樹も安全確保の意味で適切な時期に剪定をお願いしたい。

☞ 雑草、街路樹の剪定及びその時期については、交通安全の観点から進めて行く。安全確保は進めていきたい。

・集中豪雨があった場合、冠水する場所がある。生活を脅かす重要な事であり、雨水対策をお願いする。

☞ 集中豪雨に関して、市民に心配の無いよう環境を整えていきたい。

・公民館トイレの洋式化、サーモカメラを設置してほしい。

☞ 公民館のトイレの洋式化については、順次予算化に向けて取り組んでいきたい。

・エコクリーンピア周辺での食事場所の確保をお願いしたい。

☞ エコクリーンピアはりまでは、屋上庭園や４階ホールを食事スペースとして利用可能である。事前に管理事務所へご相談いただきたい。

・明姫幹線南Ａ地区について、調整区域が市街化されたことにより、前向きに進んだと感じている。しかし、農業地域、調整区域も多く残っている。市街化地域、臨海部等、住み分けを念頭においた大きなグランドデザインの下で進めることで、今後進める地域への模範となると考える。

☞ 市街化調整区域の市街化については、県と協議しながら進めたい。Ａ地区のこれからの整備（下水道等インフラ）は前向きに進めたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・タクマ自治会内で大雨が降ると度々冠水する。(9/1 も冠水があった) 松陽中学校バックネット横のポンプでは間に合わない。

☞ 松村川防潮水門･排水機場の工事を進め、令和５年度末の完成を目指しており、完成後は当該地域の浸水被害が軽減される。

・高齢者が増える中、「高砂市民病院のあり方」についての進捗を広報誌などで教えて欲しい。近くで安心して治療・入院設備などの充実を目指して欲しい。

・意見・要望を伝える機会が持てて良かった。市長に各協議会などへの参席してもらう機会を作り、交流の場を持って欲しい。

・魅力ある市になるために、市街化調整区域の活用を含め、人口増加に繋がるように、難しい話だけでなく、もっとざっくばらんな話ができるように

・梅井地区の中央緑地帯の撤去は考えられないか。（交通量増加で危険）

（４）中筋地区

▽『ＪＲ曽根駅南口の設置について』

・ＪＲ曽根駅に関しては、市単独ではなく、県を一緒に巻き込んでＪＲと三者で進めていただきたい。県を巻き込まないとこのような大きな事業は進まないと思う。

☞ 県の担当部局と一緒にＪＲと協議している。

・ＪＲ曽根駅関係で、自由通路と線路の南側沿いの道路は、拡幅ができないと自由通路もできないと思う。

☞ 南側に入口ができると交通量も当然増えてくる。交通問題が発生しないように取り組んでいきたい。

・高砂市には玄関口となる駅がない。曽根駅南口ができることで駅名の変更はできないか。

☞　ＪＲには提案したことがある。駅名を変えるだけで数億かかるということで、費用対効果を考え検討していかざるを得ない状況である。

・水路、河川の除草については、もう少し頻度を上げて実施していただきたい。

☞　作業される方の減少や、子どもの通学時の安全確保から、関係部署に伝え問題解決に向けて進めたい。

・春日野町バイパス高架下スポーツ広場に移動式トイレが設置できないか。

☞　ハードルは高いと思うが、国の方と相談させていただく。

・市民病院の状況と今後の方針を聞きたい。

☞　公立として市民病院を残していきたい。財政的なことも踏まえ、東播磨医療圏での必要性がどのような形であるか分析し進めている。ダウンサイジングしても市民病院は必要と考える。

・公共施設最適化計画による施設数減少について、対象施設がある自治会について地域の利用状況や市民の意見を十分確認してから説明に来るべきである。

☞　公共施設を計画的に削減していかないと、維持管理が財政的に大変重くのしかかってくる。これからも、各地域の方々に丁寧に説明をさせていただきたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・春日野町にはスポーツ広場はあるが、トイレや水道等がないため、町民が使用しにくい。

☞　ＪＲ曽根駅周辺整備のまちづくり協議会において、駅南地区のまちづくりとして公園を位置付けていきたい。

・ＪＲ曽根駅南口の早期の整備をお願いします。

・この地域にお住まいの方にとって、非常に関心のある内容の話し合いであったと思います。少人数ですが中身の濃いミーティングでした。

・コロナ禍で積極的な案内ができなかったとは思うが、参加人数が少ないのが残念だった。

（５）曽根地区

▽『山電曽根駅…人が集まる町づくり』

・曽根独自で展開できるまちづくり、住民を呼び込めるまちづくり、健全に人が集まれる場所づくりを考えると山電曽根駅周辺を取り上げて考えたい。

☞ 市内にある６つの駅を計画的に整備していく駅周辺整備プログラムの策定を予定しており、駅周辺整備基金を活用した中で進めていきたい。山電曽根駅周辺では、アンケートとまちづくり協議会の意見を参考に、地域の方々のご意見を聞いたうえで進めていく考えである。

・歩行者の安全面から山電曽根駅南側の道路整備と踏切の勾配の解消ができないか。

☞ 南側道路が二股に分かれていることは認識している。西側の子どもたちの通学路としては、踏切を渡ってから横断歩道を使って登校してもらうことで安全確保をお願いしたい。駅周辺整備基金を活用して進めていきたい。

・治水対策について聞きたい。

☞ ポンプ場の整備、排水機場の整備に取り組んでいる。洪水、浸水等の情報を速やかに収集し、お知らせすることにも取り組んでいる。

・交差点の事故解消に向けて信号整理ができないか。

☞ 交差点の問題、信号の時間差は警察との協議が必要となる。警察への打診はしていきたい。

・空き家対策はどうなっているか。

☞ 情報収集しながら状況把握に努めており、補助メニュー等について検討しているところである。

・小さな神社、祠を地域コミュニティの一つととらえ、公園と同じ感覚で助成してもらえないか。

☞ 各地区連合自治会の自主的かつ公益性のある活動を支援するための補助金等については検討していきたい。

・にぎわい作り、子育て支援の視点から見た公園管理について、除草についての予算を組んでほしい。

☞ 地元の公園管理の負担軽減を検討すると共に、他のボランティアなどとの連携も考えていきたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋
・人口減少を見据えた市政推進を
・たくさんの意見が出て、わかりやすくてよかった。今後も年に何回か実施できたらいいと思う。
・松陽学園での実施もお願いします。
・質問に対して丁寧に回答していただいたので良かった。

（６）米田地区
▽『米田町の未来像』
・図書館横の歩道橋を北側にも降りることができるようにしてほしい。子どもの見守り活動を行っているが、子どもにとって危険個所である。
☞ 県の管轄になるが、市としても安全確保のための要請をしていきたい。

・宝殿駅のことについて、ＪＲの本線で高砂市の玄関口を持つことが大事である。
☞ ２号線までの道路の拡幅を今現在進めている。地域の活性化において、駅を中心とした賑わいづくり、住みやすいまちづくり、働きやすい場所の開発も含めて行っていかなければならないと考えている。

・高砂球場のトイレや陸上競技場の整備を進め、子どもたちが活発に活動できる場の整備や教育が大切である。
☞ 野球場のトイレ改修は今年度実施する。公共施設の整理は、最適化に向けて進めるが、トイレの改修など環境整備は遅れないように進めていく。

・米田にふさわしいような文化が子どもや次の世代には必要である。公民館がコミュニティ会館的なものとなり、市情報や地域の情報の発信や手助けができ、地元も一緒になって横とのネットワークづくりができる仕組みを考えてもらいたい。
☞ 地域の世代を超えた方々が、一致団結してまとまっていくということは大切なことだと考えている。行政と地域が一体となって、将来に向けて物事を考え、進めていくべきと考えている。

・子ども達の育成に力を入れることが、人口減少を防止することにも一役買うと思う。
☞ 今後も、子育て世帯への切れ目のない支援に努めると共に、質の高い幼児教育と安全安心な保育を提供していく。民間園との連携など、市の子育て施策をＰＲし、人口減の防止に努めていく。

・昨年度のテーマであった「水道」「サービスコーナーの方向性」「見守りカメラ」のその後の状況はどうなっているか。

☞ サービスコーナーをアスパ高砂の３階に設置し、そこで日曜開庁も実施することで進めている。見守りカメラの設置場所を自治会やＰＴＡの方々と協議しており、令和５年度に工事に入る予定である。水道については、料金見直しの上下水道事業審議会からの答申等を各公民館での市民説明会で説明した。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・水道や市民病院などの現在直面している問題に加え、今後の夢のある事業の推進を進めることで、人口減少を少しでも抑えられる努力をするなど、良い意見が出て良かった。

・教育にもデジタル化の波があるが、本を読むことが忘れられないか心配。学校に司書教諭を配置し、本を読む習慣を育てて欲しい。

・公共施設が老朽化している。経費が必要になるが、各補助金などを見直し予算を効果的に使って欲しい。

・高齢化社会対策として、市内移動の対応を検討して欲しい。

・市のシンボル「尉と姥」、他市町の実態をもとに老人福祉の充実を

（７）阿弥陀地区

▽『将来を見据えた阿弥陀町のまちづくり』

・畑、田んぼが少なくなってきている。今後、それらが資材置き場の増加や耕作地の激減に繋がってしまう。また、休耕田を持っているだけでマイナスになってしまう。全体的に大きな観点で他市と連携して政策を行ってほしい。

☞ 阿弥陀地区国道２号の沿線（北側）は、区域や一部分を市街化に設定して進めることも検討している。耕作放棄田も増えてきており、考えていきたい。休耕地について、自然エネルギーが必要ではあるが太陽光パネルが増えることには一概に賛成とはいえない。乱開発になると良くないため、協議する場を持っていきたい。今後については、休耕田を借りて農業をしたい方への支援には取り組んでいかなければならない。移住での成功事例もあるので、市がどういった形で支援できるかを今後の課題として取り組んでいきたい。

・空き家が増えている。実質的に空き家がなくなるような対策を行ってほしい。

☞ どういうニーズがあるかを分析しながら進めるべき問題と認識している。時間をいただいた中で取り組んでいきたい。

・ＪＲ曽根駅周辺の再整備計画について、わかる範囲で説明してほしい。ＪＲ曽根駅は南北ともに狭い状況である。南は道路を広くし、北側には空間を駅前広場等、広く使うことは考えていないか。

☞ ＪＲ曽根駅については、自由通路を作ることで進めている。駅周辺（南北）は、道路の拡幅等、できる範囲で県と併せて調整していきたい。

・自治会に関する補助金については考慮してほしい。

☞ 自治会をはじめ、各種団体の方々には本当にお世話になっている。全体のバランスや他市の情報を収集して、何ができるのか検討させていただきたい。

・今後、市ノ池公園、山沿いのあたりをどうしていこうという考えはあるか。また、阿弥陀町にしかないものを生かした市政をお願いしたい。

☞ 子ども達が安心して遊べる空間、高齢者の方々には健康管理のできる公園づくりを行っていきたい。また、市内に楽しめる山があり、これを何かに生かしていきたい。下山された時にどういった空間が提供できるか。高砂市の魅力を作っていきたい。

・市民の困りごとに対して、すぐに対応できる組織、市職員と市民が密度をもってつながる対応をお願いしたい。

☞ 内容によって、どこの部署が対応できるのか連絡体制を整備していきたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・調整区域の耕作放棄地の解消と高砂市の農業の将来展望について検討して欲しい。

☞ 令和５年度から地域の農業のあり方や目指すべき将来の農地利用の姿を明確化した地域計画を策定していく予定である。

・和式トイレが苦手な子どもが多い中、市ノ池公園のトイレが和式なので、公園のトイレはきれいに整備して欲しい。

☞ 令和４年度中に、緑の相談所、バーベキューサイト、芝生広場のトイレを改修予定である。

・調整区域でも緑を守りながら何か良い方法はないか。

・話で出た方向性などについて、住民と市が一体になって、具体的に目で見える形で実施されることを願う。

・ＪＲ曽根駅周辺のタクシーを含む送迎車待機場所と、金ケ田からの通学路の安全対策をお願いしたい。

（８）北浜地区

▽『北浜隧道（トンネル）の改善について』

・通学、通勤において非常に危険であるが、解決策に結びついていない。大塩曽根線が開通すれば、そちらへの移行もできるが、都市計画道路になっているため、着工のめどが立っていない。通学の安全をどう確保するか。根本的に解決していただきたい。また、この問題は解決するまで続けていくべきである。

☞ 北浜隧道に関しては、昭和４３年に完成してから約５０数年経過している。その間、地域の方々による周辺の子どもたちの見守りには本当に感謝している。今年度は、隧道内の照明をＬＥＤ化し安全確保に努める。ドライバーにスピードダウンをさせるような方策を考えたい。

・「トンネルの横に３メートルの歩道を付け、トンネル内は車道だけにする。」ということが歴代市長の方向付けではなかったか。

☞ 子どもたちの安全を考えていくことが一番だと自覚している。安全確保のため、構造的にできることを考えていきたい。車のスピードを抑制することが大事であるため、トンネル内と前後に「速度落とせ」と「矢羽根」の路面標示を実施した。

・トンネルについては、信号方式を考えられないか。

☞ 信号の設置については、警察と協議する必要がある。

・北浜のトンネルを市民のために、子どものためにどうしたらいいかを考え実行してほしい。また、介護事業所の利用に向けての通行でも危険な個所である。

☞ 交通安全、通学路の安全確保という観点から考えていきたい。

『ごみステーションのあり方について』

・人口が増え、世代が変わり、ごみの出し方・内容が変わってきた。

☞ ごみ問題については他の地域でも聞いている。苦慮されていることは理解しているが、行政側にどのような対応ができるのか難しい問題である。

・夜行性動物や夜間のごみ出しによる、ごみの散乱を地域住民が清掃しなければならいことで大きな支障が出ている。

☞ 周辺に山があるという環境条件もあると思うが、考えていく必要はあるので研究させていただきたい。

・ごみ出しルールはあるが、生活様式の変化に対応が必要ではないか。新たな形のごみステーション設置にむけて助成金制度が考えられないか。（蓋付きごみステーションの設置）

☞ ごみステーション設置に関して助成制度はない。時代背景の中で考える必要があるので研究したい。

『里山の防災林危険木材伐採事業について』

・事業実施後、地域住民で８年間里山の樹木伐採を行うことになっている。危険な作業が伴い、住民では対応しきれなくなっている。市の支援はないか。

☞ 森林環境譲与税を活用した小規模森林整備事業の活用について、担当部局から説明したい。危険な作業があるということで、状況を確認し進めるように考えたい。

▽アンケート自由記載より一部抜粋

・ゴミステーションの件で、現状道路上に置いているため固定式は難しい。場所の確保に努めてほしい（牛谷団地）。

☞ 開発地以外のステーションは自治会に確保いただいており、市では行っていない。また、移設や拡張が必要な場合は、各自治会で確保いただくと共に、エコクリーンピアはりままで連絡いただきたい。

・北浜隧道に関して、根本的に自転車等の通学に使える別の道が必要。市長をはじめ関係の方は、実際にその時間にそこに通い、実際の状況を把握するべき。

・空き家の活用、調整区域の解除、田畑の耕作できない家が増えています。

・北浜隧道は、小学生・中学生の通学の時間だけ車を通行止めにしてはどうか。

・時間が短いので踏み込んだ話にはならないが、問題点を提示できただけでもよかった。

・ＪＲ曽根駅間の交通整備（インフラ、方法）を考えてほしい。通勤するにも、その時間帯にバスが運行されていない。

・隧道の件について、安全安心に通学ができる方法について、建設関係の委員会に投げかけていただきたい。